

# 水拓

第五〇号昭和卅五年十月十五日発行  
毎月十五日一回発行 一部 十円  
昭和卅二年十月十八日 第三種郵便物認可

十月



カタクチイワシ（ハマチ餌料）の出荷 （淡路・佐野港にて）

兵庫県漁業協同組合連合会  
財団法人 兵庫県水産業改良普及協会

# “漁村に健全な

## レクリエーションを”

### 淡路地区漁村青少年クラブ一夜講習会開く

過去長い間封建的な社会にとざされてきた漁村も最近では、明るい、住みよい漁村建設をめざして努力している。これも昭和二十六年本県が全国に先がけて実施した水産業改良普及事業の賜と確信する。水産業改良普及事業の本質は、個人とグループによるプロジェクトの遂行にあると考える。このプロジェクトの遂行に当って忘れてはならないのは、漁村における健全なレクリエーションの普及である。都会や農村では非常にレクリエーションが普及しているが、漁村においては食うための労働に追われているという状態で、レクリエーションを考える余裕がなかったことは衆人が認めるところである。そこで健全なレクリエーションを普及させ、レクリエーションを通じてクラブ活動を活潑にさせるため、県下最初の事業として淡路地区漁村青少年クラブ一夜講習会を開催した、

この講習会を行うにあたって、現在のクラブ活動の現状分析をした結果、漁村のクラブ活動が始まって九年を経過した現在、その転換期にあることがいえる。そこでクラブ活動をより一層活潑に推進するための指針を求めため、この事業の問題点、要望、意見を聴取し、それをいろいろの角度から検討した結果、淡路地区漁村青少年クラブを対象にした。「漁村青少年クラブ活動実施要綱」を本年二月に制定し、これに基づいて各クラブの指導方針を樹立したのである。この実施要綱は、地域漁村の実態に即した方策を積極的に取り入れ、地域漁村の問題点を見出し、それを解決させることにある。こうしてできたクラブ活動実施要綱に基づいて淡路水産指導室と淡路水交会連合会が共催でこの講習会を開催した。

以下その内容と問題点を述べてみる

一期日場所参加者について――

開催期日は八月十四日、五日の二日間で、一般社会人にとっては先祖の霊を祭る盂蘭盆のときを選んだ。漁村においては、日々の水揚げが直接その日の生活に影響する現況から見て随時休漁することは困難であり、全島一斉に休業する日が年に盆と正月の二回しかないことと、クラブ員としてもレクリエーションの必要性は認めながらその機会がなく一夜講習会の性格と、全島一斉休業を考え合せるとこの時に行うのが最適ではないかとの意見が強くこの二日間を利用したのである。誰でも盆と正月位はゆっくりと休みたいのが人情であるが、少しでも一般社会人並の生活をした意欲が伺える。こうした漁村青年の意欲を増大させるためにも、この二日間はどれだけ大切か。私欲を捨て講習会に参加しようとするクラブ員のためにも有意義な講習でなければならぬことに充分主催者としても考えたのである。

次に場所は三原郡西淡町松帆慶野浜を選んだ。人員の収容能力、環境、設備等考え合せると最適である。この慶野浜は南北二軒、巾は広

たいと思う。

### 目次

漁村に健全な

レクリエーションを

淡路水産指導室

後藤技師：1

漁業今昔

いわしの巻(9)

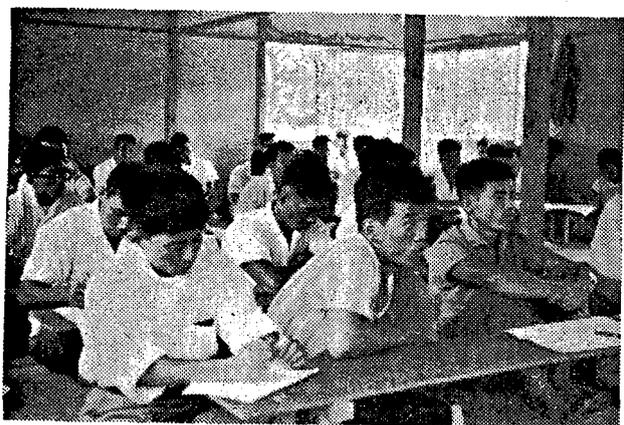
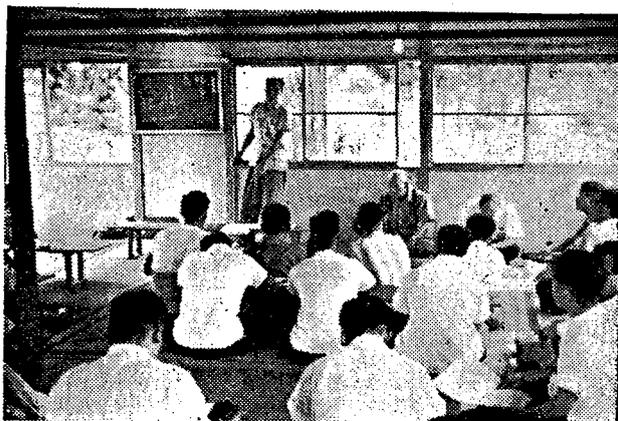
平岡安民：4

やさしい漁船機関基礎講座

水試 杉本 技師：7

第一兵庫丸「さんま漁」に活躍中……………8

昭和三十五年八月の海面漁獲の概要……………8



いところで六百米に及ぶ大松林で、日本三大松原として有名であり、樹令数百年を経た老松が白浜をおおい夏は、涼風を求める観光客が多く、園内には淡路交通経営のユースホテルや西淡町営施設の憩の家「松原荘」など研修施設が完備しており、本講習会もこれらの施設を利用することとした。

参加対象者を二十五才以下のクラブ員とするのが適当と考えたが、現在各クラブ構成員の状況を見ると大半が三十才以下となっており、こう

した構成員の中で二十五才以下のものを対象にした場合、今後各クラブ又は連合クラブがこれに類似した講習を行うとき、如何に民主的な運営を行うクラブでも若干年令層の高いクラブ員に圧迫を加えられる傾向が強くなるのではないかと考えられ、従ってこの講習会には幹部一名と、二十五才以下のもの一名とした。また参加人員は三十名位が最も適した人数であるが、淡路地区では、二十七のクラブがあり三十名では一クラブ一名平均となるので参加者総数を

五十名以内とした。

### — 実施内容 —

講習期間中は参加者全員が合宿し共同生活を行った。これは講師や関係者と寝食を共にし共同精神を浸透させるためのもので、クラブの運営や活動を完遂させるため「共同の力」が重要であるかを認識体験せしめるためのもので、漁業協同組合の健全な発展を図るためのいわゆる自立運動を展開するためにもこの精神を涵養させることが大切であると考えたからである。

講習内容は別表のとおりで、主として、漁村クラブ員としての知識の向上に必要な講習とレクリエーションを主体に考えた、別表でわかるとおり講師による講話は一時間以内とした。これは、学校の授業的なものでなく、講義の合間にレクリエーションを入れることにより気分転換をさせ、講習の効果を挙げるためである。人間誰でも一時間以上の話を緊張して聞くことは苦痛であり、特に夏期高温時に一時間も話を聞けば睡くなるのが当然で、如何に有意義な話しても無意味になることが多い。その他レクリエーション的なのは主催者の判断により適宜延長した、特

にこの講習会には、水産課長、水産試験場長を囲んで、曲り角にある改良普及事業の今後の在り方等を討議するための座談会を計画したが、止むを得ない事情により出席を得られなかった。この座談会は、クラブ員より強い要望もあり、過去においてこのような機会もなかったので主催者も、この機会には是非実現したいと思いつつも充分とっていたが誠に残念であった。しかし座談会は中止になったが、反省会には次回開催をめだして活潑な意見がだされたことはこの講習会の継続的な開催を強く望んでいることが伺える。

### — 講習会の反省 —

- いろいろな事業や講習会等が終れば反省会を開いて、今後の在り方などについて検討するのが常識である。そこでこのたびの講習会も第二日目に全員参加して反省会を行った結果、次のような意見が各クラブ員より出された。
- 1 この種の講習会は毎年継続して実施すること。
  - 2 開催期日は、盂蘭盆を中心にした日（八月十四、十五日の二日間）が適当である。
  - 3 開催場所は、講習会の趣旨から

漁村青少年クラブ一夜講習会 プログラム

第 1 日 (8月14日 日曜日)		
時 間	内 容	講 師 名
午後 1.00	全員集合	
1.10	来賓挨拶	淡路水交会連合会 塩崎会長
2.00	漁村青少年クラブ活動実施要綱説明	淡路水産指導室 後藤技師
2.30	海上衝突予防について	県水産課 笹野技師
3.30	レクリエーションの在り方	県教育委員 淡路出張所 横山社会教育主事
5.00	講話 クラブ活動の在り方	県水産試験場 川越普及調査課長
5.30	講話 新時代の青年	県教育委員会 淡路出張所 榎本社会教育係長
7.30	スライド ミタコのすべて	説明者 川越普及調査課長 指導者 横山社会教育主事
8.30	キャンプファイヤー (営火)	川野体育指導員
10.00	就 寝	
第 2 日 (8月15日 月曜日)		
午前 6.00	起 床	
6.30	体 操	横山社会教育主事
7.00	講話 組合運営と青年の在り方	塩崎会長
7.30	朝 食	
8.30	反省会	司会 淡路水産指導室 後藤技師
9.30	漁船ディーゼルの諸問題について	四国機器株式会社 鈴木技師
10.30	人命救助法について	三原警察署 上村部長
12.00	昼 食	
12.30	閉会挨拶	
12.40	解 散	

4 対象者は単位クラブの幹部とクラブ員(年令的には中学卒業者より二十五才迄)から各二名づつと

見れば、この慶野松原のような環境のところが最もよいが交通が不便であるため、時間的な制約があり今後は島内の中心部で行うのがよく、もし中心部に適当な場所がなければ少くとも交通の便利な所で開催すべきである。

5 講習内容についてもいろいろ活潑な意見があったが、これを要約すると次のようなことである。

し、幹部、クラブ員別に十名を限度として班を編成する。そして一般的な講話は、幹部とクラブ員と別々にし、レクリエーション的な行事は合同で行う方が効果的である。講習会の名称も一考を要する意見が多かった。

- (1) クラブ相互の意見交換をするような時間をつくること。
  - (2) 漁村にもって帰って実際に活用できるレクリエーションを採り上げて指導してほしい。
  - (3) 漁民は言葉が荒く、話し方も下手であるといわれましてその通りである。このような機会に、これを改善するため「話しの方」「言葉の使い方」というようなテーマを作ってほしい。
  - (4) 講習会当初に全員の自己紹介を行うこと。
- 以上のような意見があったが、この種講習会を継続して開催してほしいと強く望んでいることは、この最初の講習会が有意義であったことが伺い知れる。

問題点

- 1 時期が限定されることである。前述のように漁業に従事する青年の一斉休日は、孟蘭盆と正月しかないので夏期八月十四、十五日に限定される。
  - 2 開催地の選定については、近くに遊興する場所がないところで研修施設(学校、公共施設)があること。
  - 3 若いクラブ員を重点にした講習会が適当である。
  - 4 講習内容に漁民自立運動を推進する基本的な講話を取り入れ漁村建設に若い力の必要性を強調すべきである。漁業協同組合精神の涵養も必要である。
  - 5 講習会に参加させることが容易でないこと。
- 以上講習会開催にあたってその経過及び内容、問題点等ごく簡単に述べたのであるが、この講習会の目的はプログラム中にある「組合運営と青年の在り方」と題して講話された塩崎水交会連合会長の「百里の外を照らす灯台よりも足もとを照らす提灯たれ」の一語がそのすべてを言い尽している。ともかく県下最初の試みとして行った講習が予想外の成果に終わったことは、参加者の熱意と講師諸先生方の熱心な懇切な御指導の賜であり主催者としてこの拓水を通じて厚く御礼申し上げます。今後共より一層の御指導と御鞭達をお願いする次第であります。
- 淡路水産指導室  
技師 後藤 進

## 漁業今昔

## いわしの巻 (9)

平岡安民

## 漁労長一年生

会社は新しい漁期に備えて漁夫雇入漁船整備漁具購入などに取りかかったが、かなりこれは難航したようである。

一日、支配人のNさんは「いよいよあなたがやる番になりましたぞ。」

「私に決定するにいたった経過を説明し、唯一の条件を付けられているのでそれを承認してほしいといった。それは、副漁労長として、漁労長級の人物を迎えてくる。その人選は私にまかせるということである。」

「いや、まだそんなことを引きうける自信はありませんよ。」

「いいたい所をこんな陳腐な、しかも腹にないことがわれ知らず出てしまった。やはり平素の格言にも似ず心の底に自信の足らぬ所もあったろうし、又よろしいやりましたと卒直にいえず一応謙遜したあいさつをせねばならぬと考えるのも俗物根性のなせるわざであろう。Nさんは相手の腹を見すかしたように取り合はず、一寸声をおとして重々しい調子に変わって

「二年よくなかったあとでね、しかも昨年の下漁のあとですからやりいんですよ。まさにチャンスです、しっかりやって下さい」

書き物こそないが辞令を渡すといった態度でこういって、キッパリしたことで結んだ。そして私の手をぐっと強く握りしめた。私は下手なこ

とをいえば又笑はれると思つて「これから勉強するつもりでやってみましょう」

これは正直なところである。そして一寸頭が下った。Nさんが蝟集する自せん他せん候補者を退けて、平生から個人的に馬が合い、気心のよくわかった私を引き立ててくれたいきさつを、あまりにもはっきり知っていたのである。こうなれば常々広言をはいた手前からも、殊にNさんが期待する抱負を仕事の上に施さねばならぬハメに立たされたわけである。

そして若干の抵抗をかんじたものがあるとすれば、それは盲へびにおじぬ私にとって、未熟さによるためらいではない。もっと根本的に胸中にくすぶっている懷疑であったらう。私は漁業という仕事に、勿論きらいではないが好きでもなかった。唯生得の人間きらいと、大自然の中のの生治をこのんだのとで、こんな仕事にはいつてしまったに過ぎない。

人間らしく生きよう。こういう要求から都会をのがれ世間を避けて山峡に住む、無車先生の同志となつて百姓をやってみたが、その中にさえ不合理は多く、若者の純粋さは遂に

そこにも安んずることができず、志の合う連中と共に、第二の「理想境」をきづこうという幼稚なしかし虹のような空想をえがいて朝鮮に押し渡った私であった。

人間らしい生き方とは何か、人間らしい社会とは何か、金もうけ本位の事業など興味はないし、人間が人間をさしづしたり酷使したりすることとは、およそ人間らしい社会とかけ離れた状態である筈だ。ところがこの中着漁船に乗ってみると、大勢の人間を半年も穴倉の中へ住まわせておいて、ブンなぐって使っている、資本主義経営の第一線の象徴的なたがたをここで見た。甚だ不愉快であった。しかしもうこの時の私はそんなことに驚きもせぬし、ふんがいもしなかった。大人になった私にもっと激しい条件のもとに、経済機構などを超えた大きな世の流れの中に、弱肉強食が行われていることを知っていたからである。そしてせめて食はれる立場に立ちたくないと念じていたのである。それが大勢の家族をかかえて貧苦の底に落ちるようになってからは、いつの間にか考へ方まで変っていた。場合によつたら食はれる側に立ちたくなくなつたら食う方に廻らねばならぬこともあり得ると

考へるようになっていた。業界に名を知られた優秀な漁労長は何年かの間に水田の何町歩も買いかんで一ト財産をつくっていた。この収入は魅力であったし、また多くの人を集めて自分の指揮で手足のよりに使ってみた。それができる権力の虚というものが、麻薬のような力をもって人間の良心をマヒさせるものである。

そんな抵抗がチョッピリ残っていたとしても、もうこの時の私は事業にたいする新鮮な興味と覇気とはなくなっていたのである。

先づ副漁労長には一昨年大徳丸で副漁労長をやったAという男が昨年漁労長をやったけれども今年は浪人するらしいとの聞きこみで、長崎にこの人を訪れ、乗船をたのむと喜んで承諾してくれた。この土地で若い漁夫も十人位集められたので南鮮の田舎へ行って漁夫五十名を雇入れる段取りとなった。一般に船頭と称する漁夫頭が自分でかき集めた部下を連れてやってくると、初対面の漁労長と偶然の出合いとなつて一つの仕事に就くので、ことばも通じないし意志の疎通ということが全く望みがない。そこで私は船頭を連れて現地へ乗りこみ、若者達を旅宿に呼んだ

り、先方の家を訪ねたりしてスッパイ朝鮮酒もくみかわし、歓談し、そこに先づ親しみをづくり上げる努力を試みた。

「おまえたちは、わしと一しよに船に乗って働くことになつたら昇さも寒さも、苦勞を共にするのだ。それどころか生きるも死ぬるも皆一しよだ。いはば家族以上の結びつきがあるんだ。縁というものがあるんだ。仲よくしてウンと頑張ろう。しっかりやってくれ」

何だかキザで青くさい文句のようだと気がとがめながらも、こういう態度で打ちつけて酒をくみ交す間に向うから懐にとびこんでくるような気がする。

乗船六カ月に余る間、平漁夫とはアイサツ一つかわすでもないのが普通となつている日本人漁労長にこのような態度で接しられると、一寸した驚きであるし、親しみも感じながら、こやつ朝鮮語も一通りしゃべるから、ただの連中のように腹いせの悪口をあびせてウップンをぶちまけるところというわけにゆかぬ、うるさい相手だと観念もしたろう。

といったN支配人のことばは本当であるが、会社はいわし巾着を継子扱にするようになっていた。

他のさば巾着、底曳網、貨物船などがモリモリもっているのに、いわしだけは新船建造以来赤字つづきである。社長の口吻によると「ギセイ的経営」なのだそうである。

漁夫雇入契約金が少いので社長に直談判をする。

「戦争で人手不足となり各船共漁夫雇入に力を入れていたので前貸金を余計に出さねば、よい漁夫が雇へないので。近頃うんと金額もハネ上つてきましたよ」

「いわしなどどうせもうかる事業ではないんですよ、そんなものに入れる金があったらもっと確実な方面に投資しますよ」

「そんなことなら事業をやる意味がないぢやありませんか。十分な膳立てをせねば又々損失を見ることになりすから」

「さあ、そこちやて我々としては何に重点をおくかというわけです。そこその準備がまんしてもらわねばならん」

万事この調子である。網も新品六百反の要求にたいして二百反しか出さぬという。この方は寺局柄資材入手

難という説明であるから、泣き寝入りの外ない。

これが一流の漁労長で、船主から辞を低うして迎へられた人であつたらどうだろう。最初から漁獲配当何%漁夫雇入契約金幾ら、網何百反と結構づくめの条件をひけらかして、船主がそれを呑めば乗船してやろうという高姿勢であるから、準備万端思うがままに整える。元々手腕ある人間が好成績を上げるのは当然である。

ここでかけ出しの我々はスタートからして、大きな差をつけられているのである。昨年の古い網を補修してこれを積み、他船の雇い残した漁夫、沖で小間物店をひらくような連中ばかりそろえて、おっかなびっくりで出漁するという次第である。

新米漁労長が自信のない採配をぶつて、この陣容ではたしてすぐれた漁ができるだろうか、誰が見たって甚だ心細い限りであつたらう。どうひいきに目に見ても練習船隊の域を出ないのである。

× × × × ×

排気するという、まことに忙しい働きをやりとげねばならない。その際、もっとも必要なことは、爆発後の燃えのこりのガスをできるだけ早く外気へ排出して、次の燃焼に必要な新鮮な空気を充填しなければならないということである。燃焼には絶対空気が必要である。燃焼には理論的に噴射燃料の15倍、若しくはそれ以上の空気量が必要とされている。これだけの空気量がなければ完全燃焼しない。4サイクルではトコロテンを押し出すように排気を放出し、同様に吸入の場合も、新しい、空気を十分に吸込むことできる。最近地区によって焼玉機関の高馬力化が問題になったようであるが、ストロークばかりをのばしてみても一定の限度があろうし、むしろ2サイクルエンジンでは掃除空気の効率を考えることが最も大切だと思う。適当な圧力をもった空気が適当な時期にシリンダーに入り、極めてスムーズに排出する工夫が必要だ。これは中々難しいことで、各メーカーでも色々工夫をこらしていられるようだ。しかし実際に馬力のでる機械ができて、ポーリングが早かったり、油をものすごく食ったり、中々思うようにいかないのが現状である。

そこで掃除空気について一般的な常識事項を列記してみよう。(但し焼玉機関の如くクランク室がエヤポンプ式になっているもの)

1 吸入ポートの開くまでには、シリンダー内の圧力は大気圧の近くまで、少なくとも掃気圧力以下は下ってなければならぬ。でなければ排気が吸入管に逆流して、潤滑油の燃焼或は爆発を起す危険性がある。回転の早い機関では、排気や掃気に与える時間が非常に短くなる

が、ガスの流出す速度は、機関の回転速度には無関係であるから、この場合排気孔は成るべく大きくすることが必要と考えられる。

2 掃気作用を完全に行うには、必ず掃除空気を余分に供給することが必要で、普通気筒容積の1.2倍~1.6倍もしくはそれ以上が適当とされている。だから電着のような混合気を吸入する機関には2サイクルが採用されない理由がうなずける。何故なら燃料の損失が大となるからである。

3 焼玉の如くクランク室式ポンプは、掃気中クランク室の圧力は甚だしく変動するものであり、吸気孔の開くときの圧力は $0.3\text{kg/cm}^2$ 位であっても、掃気が始まると急に下り、吸気孔の閉るころは殆んど大気圧になる。このように圧力の変動が甚しく、また掃気量も少ないので、シリンダー容積に対する効率は悪い。従って燃料油や潤滑油の消費も多く、排気もよくない。しかし、構造簡単、製作費も安く、運転確実という、利点もある。この式でとくに考えなければならぬのは、クランクケース内の容積を成るべく小さくして気密を十分に保つこと及びエヤバルブの開閉が確実に行われることである。(とくに最近では回転数が高くなっているのこのことには注意を要する)

4 掃気圧力は余り高くなく、一定であることが望ましい。余り圧力が高いと排気と混合して不完全燃焼を起す可能性が大となる。理想としては、燃焼ガスと新気が層をなして排出されるようにされれば最もよい。

### 練習問題

- 1 機械効率をよくするには、エンジンの取扱上どんな点に注意が必要か。
- 2 農林馬力について知っていることを言え。
- 3 圧力の単位は何か。また大気圧及びゲージ圧力とはどんな圧力を言うか。
- 4 エンジンで馬力をあげるにはどんなことを考えればよいか。
- 5 急回転を起すと何故危険か。

(わからないのがあれば9月号を見て下さい。)

やさしい

# 漁船機関基礎講座 ②

## 大切なバルブの作動

水試 杉 本 幹 夫

### 4、サイクル

サイクルという言葉辞書でみると、循環、周期、一巡等の意味が書かれている。エンジンには4サイクルと2サイクルがあるが、これは4行程で1サイクル、または2行程で1サイクルという意味である。エンジンにおいて1サイクルとは、吸入、圧縮、爆発、排気の行程を一巡することである。4サイクルは2回転に1回、2サイクルは1回転に1回の爆発を起す。だからエンジンが同じ大きさであれば2サイクルは4サイクルよりも馬力がでるし、またフライホイールは4サイクルは2サイクルより大きくしなければならない。( 惰性が必要なため)

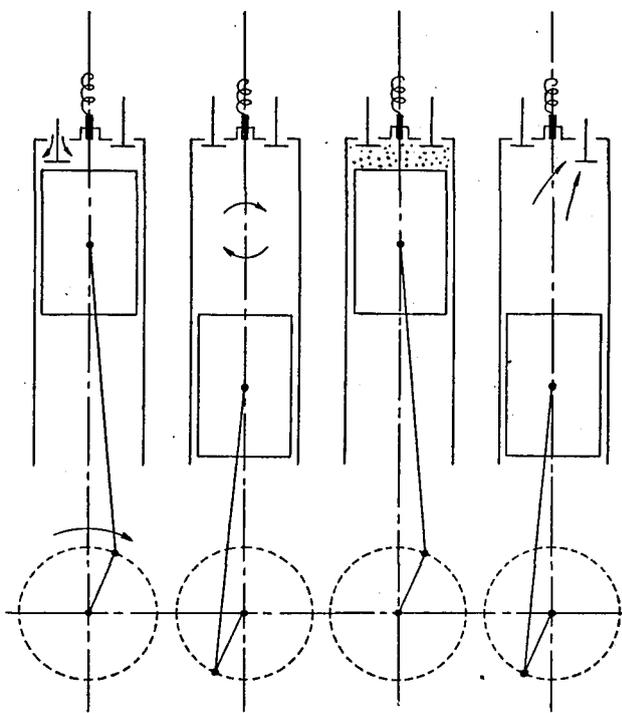
### 5、掃除空水 (そうじくうき)

よく丙機士の口頭試問で試験官から、「4サイクルで掃除空気は必要か」と、カマをかけた問題がだされることがあるが、案外受験者は迷って考えさせられることがある。勿論一寸考えれば必要でないことにすぐ気がつくが、4サイクルでは吸入から排出までが1行程あてにわかれているから全く必要がないわけである。

#### 掃除空気はどんな場合に必要か

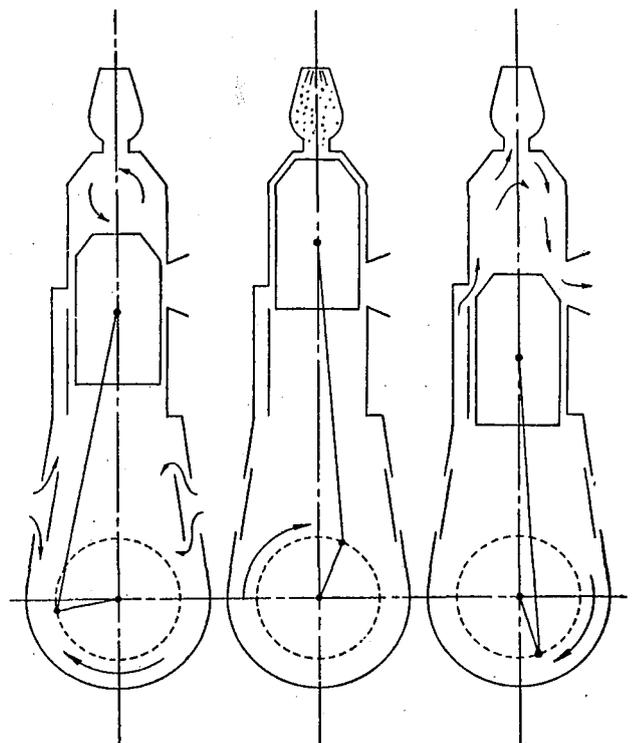
2サイクルでは前項でも述べたように、1回転する間に4つの働きをしなければならない。つまりピストンが下部死点に達して上部死点にかえるまでに、空気を吸いこんで圧縮し、爆発を起して

### 4サイクル機関の作動



(吸入) (圧縮) (膨張) (排出)

### 2サイクル機関の作動



(圧縮) (燃焼) (排出掃除)

### 第一兵庫丸サンマ漁に活躍中

第一兵庫丸は東支那海サバ一本釣漁業の裏作として太平洋サンマ棒受網漁業を実施することに決定し、六月下旬昭和三十五年度サバ一本釣漁業を終了後宇和島造船所に於て船体並に整備の増改装及び漁具の準備に着手し、併せて乗員の準備手配中の処、八月十八日これら総ての準備を完了し、同月二十一日神戸市水産会館に於て壮行会を挙行後翌二十二日サンマ漁業承認証交付港(岩手宮古港)に向け出港し、途中、那珂湊港、気仙沼港に寄港し、棒受網の操業試験を行いつつ九月一日宮古港に入港、解禁日迄待期す。いよいよ九月三日午前六時を期してサンマ漁は解禁せられ第一兵庫丸も同港に集結した他府県船三百余隻を共に承認証を受領一斉に釧路南方の漁場に向って出港す。本年度のさんま漁は当初の予想に反して例年に比し漁場も遠く不漁気味にて各船の操業日数も例年より長く漁況も区々にして操業も意の如くならざる現状である。第一兵庫丸は他府県船に伍していささかの遜色もなく九月末日迄に左記の如き水揚実績を揚げ目下所期の目標を達成すべく北海道南方漁場に於て活躍中であります。

#### 記

第一航海	九月十一日	茨城県那珂湊に於て水揚げ	二八、〇〇〇疋	水揚金額	約二、一六〇、〇〇〇円
第二航海	九月十九日	宮城県女川港に水揚げ	一九、〇〇〇疋	水揚金額	約八八〇、〇〇〇円
第三航海	九月二十九日	福島県小名浜港に水揚げ約二四、〇〇〇疋	水揚金額	約一、〇七〇、〇〇〇円	

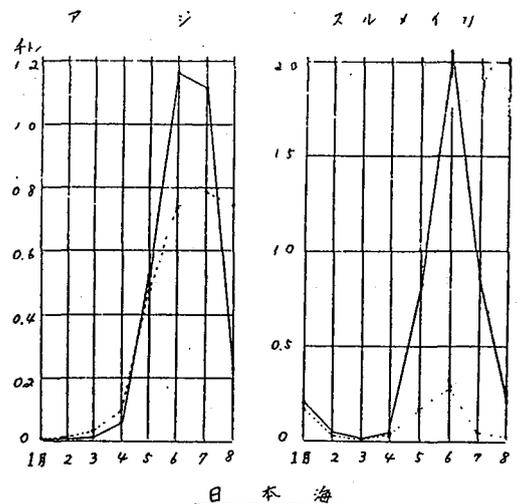
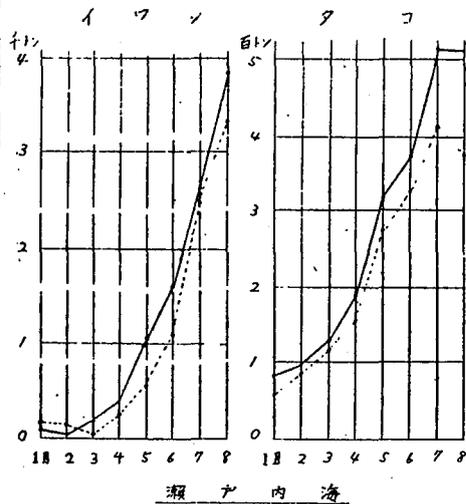
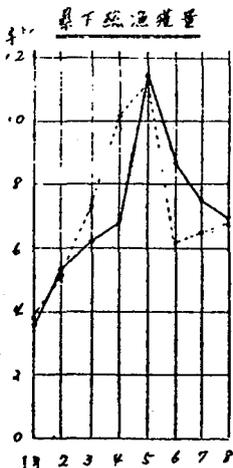
### 三五・八月の海面漁獲の概要

昭和三十五年八月中の総漁獲量は、六、九三三トンで前年同期の一〇三%、過去五ヶ年(昭三十~昭三十四)同期平均の一〇二%である。内海側ではイワシの漁獲が七月にひきつづき例年を稍々上廻ったが、夕

コトエビは八月に入ってから振わず  
タコは例年の八八%、エビは七七%  
の水揚げであった。  
日本海側では好漁であったアジと  
スルメイカの漁獲がほぼ平年並みに  
落ち、漁獲不振であったイワシは八  
月になって例年よりやや上廻ってい  
る。



本年の月別漁獲量と昨年の月別漁獲量との比較 ( ——— 本年、----- 昨年 )



昭和35年8月中の海面漁獲量 (単位: トン)

海区 魚種	県 総 計				瀬 戸 内 海				日 本 海				
	35年	34年	増減量	率	35年	34年	増減量	率	35年	34年	増減量	率	
総 計	6,933.3	6,753.9	179.4	103	5,734.0	5,327.2	406.8	108	1,199.3	1,426.6	△ 227.3	84	
魚	イ ワ シ	4,405.6	3,837.3	568.3	115	3,836.1	3,356.9	479.2	114	569.5	480.3	89.2	119
	イ カ ナ ゴ	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.
	タ ラ	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.
	カ レ イ	39.4	35.3	4.1	112	39.2	35.1	4.1	112	0.2	0.2	0.	100
	タ イ	19.3	24.5	△ 5.2	79	14.9	20.1	△ 5.2	74	4.3	4.4	△ 0.1	98
	サ バ	74.7	28.0	46.7	267	7.5	1.9	5.6	395	67.2	26.1	41.1	257
	ア シ	462.7	1,004.0	△ 541.3	46	235.8	254.8	△ 19.0	93	226.9	749.2	△ 522.3	30
	サ ワ ラ	0.8	1.1	△ 0.3	73	0.8	1.1	△ 0.3	73	—	0.	—	—
	ブ マ リ ハ マ テ	47.0	66.2	△ 19.2	71	42.8	63.9	△ 21.1	70	4.2	2.3	1.9	183
	ボ ラ	44.9	25.0	19.9	180	44.7	25.0	19.7	179	0.2	—	0.2	—
	ハ モ	56.8	37.9	18.9	150	56.8	37.9	18.9	150	.	.	.	.
	ア ナ ゴ	28.2	43.7	△ 15.5	65	28.2	43.7	△ 15.5	65	0.	0.	—	—
	シ イ ラ	12.3	43.3	△ 31.0	28	1.8	1.8	0.	100	10.5	41.5	△ 31.0	25
	サ メ	11.9	9.9	2.0	120	11.9	9.8	2.1	121	—	0.1	△ 0.1	—
類	ハ タ ハ タ	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.
	ニ ギ ス	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.
	その他の魚類	420.2	383.9	36.3	109	396.2	359.0	37.2	110	24.0	24.9	△ 0.9	66
	(魚類計)	5,623.8	5,540.0	83.8	102	4,716.7	4,211.0	505.7	112	907.0	1,329.0	△ 422.0	68
	ス ル メ イ カ	196.9	30.7	166.2	641	.	.	.	.	196.9	30.7	166.2	641
水産動物	その他のイカ	93.6	101.4	△ 7.8	92	33.6	57.3	△ 23.7	59	60.0	44.0	16.0	136
	タ コ	503.1	379.3	123.8	133	500.9	376.5	124.4	133	2.2	2.7	△ 0.5	81
	エ ビ	300.3	360.7	△ 60.4	83	300.3	360.7	△ 60.4	83	—	0.	—	—
	カ ニ	29.2	111.4	△ 82.2	26	29.2	111.4	△ 82.2	26	.	.	.	.
	ナ マ コ	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.	.
	その他の水産動物	29.2	27.2	2.0	107	29.2	27.2	2.0	107	.	.	.	.
	(水産動物計)	1,152.3	1,010.6	141.7	114	893.3	933.1	△ 39.8	96	259.1	77.5	181.6	334
貝藻類	貝 類	125.3	182.3	△ 57.0	69	121.1	177.9	△ 56.8	68	4.2	4.4	△ 0.2	95
	藻 類	31.9	21.0	10.9	152	3.0	5.2	△ 2.2	58	28.9	15.7	13.2	184

(注) △減は ○は50kg未満 (50kg以上は100kgに切上げ)